

氏名	牧野 琢丸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5916 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Computed Tomography Findings for Diagnosing Follicular Thyroid Neoplasm (CT所見による甲状腺濾胞性腫瘍の鑑別)
論文審査委員	教授 大塚文男 教授 土井原博義 准教授 平木隆夫

学位論文内容の要旨

現在、術前に甲状腺濾胞性腫瘍の濾胞癌と濾胞腺腫を鑑別する方法は確立されていない。手術により摘出しないとこれらの診断がつかないため濾胞性腫瘍の多くの患者が診断目的に手術を受けているのが現状である。今回我々は造影 CT において造影効果不均一となる所見が濾胞癌と濾胞腺腫の鑑別に役立つかを検討した。

2002年1月から2016年6月の期間に甲状腺濾胞性腫瘍に対して手術加療を行い、術前に単純 CT と造影 CT を撮影した 205 例(濾胞癌 31 例、濾胞腺腫 174 例)を対象とした。

CT 所見で造影効果不均一だったものは 100 例(濾胞癌 23 例、濾胞腺腫 77 例)であった。CT 所見での濾胞癌の鑑別は正診率が 58.5%であった。さらに CT 所見と穿刺吸引細胞診所見の両方が陽性だったもので診断すると、正診率が 88.8%であった。単変量、多変量解析において CT 所見での造影効果不均一は濾胞腺腫に比して濾胞癌で有意に多く認められた(単変量解析: $p=0.0032$ 、多変量解析: $p=0.0030$)。

造影 CT 検査は濾胞癌と濾胞腺腫の術前鑑別診断の補助になり得ると考えられた。

論文審査結果の要旨

本論文は、術前に甲状腺濾胞性腫瘍の濾胞癌と濾胞腺腫を鑑別する方法として、CT の有用性について検討されたものである。手術により摘出しないと診断がつかないため、濾胞性腫瘍の多くの患者が診断目的に手術を受けているのが現状である。研究者らは、造影 CT において造影効果不均一となる所見が濾胞癌と濾胞腺腫の鑑別に役立つかを検討した。2002年1月から2016年6月の期間に甲状腺濾胞性腫瘍に対して手術加療を行い、術前に単純 CT と造影 CT を撮影した 205 例(濾胞癌 31 例、濾胞腺腫 174 例)を対象とした。CT 所見で造影効果不均一だったものは 100 例(濾胞癌 23 例、濾胞腺腫 77 例)で、CT 所見での濾胞癌の鑑別は正診率が 58.5%であった。CT 所見と穿刺吸引細胞診所見の両方が陽性だったもので診断すると正診率が 88.8%であった。単変量・多変量解析において CT 所見での造影効果不均一は濾胞腺腫に比して濾胞癌で有意に多く認められた。

造影 CT 検査が濾胞癌と濾胞腺腫の術前鑑別診断の補助になり得ると考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。